

分野 (2) ぜん息・COPD患者の患者教育及びアドヒアランスの向上に関する調査研究

研究課題名 : ②-(i)ぜん息・COPD患者に対する患者教育の実践(小児・成人ぜん息分野)

申請課題名 : アレルギー専門メディカルスタッフのスキルアップのための教育研修プログラムの開発とその検証に関する研究

調査研究代表者氏名 : 赤澤 晃

1. 評価軸別の評価

大変優れている(5点) 優れている(4点) 普通(3点) やや劣っている(2点) 劣っている(1点)

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 研究成果目標(目的)の達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
(2) 研究計画の妥当性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	個別評価平均					3.9

2. 総合評価

(1) 評価基準に沿った評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
(2) 記述評価	<ul style="list-style-type: none">・日本小児臨床アレルギー学会や当機構のホームページから取り出せるスキンケア、吸入手技、アナフィラキシー対応の動画ができることが望まれる。・第7期に由来する実行度の評価とのこと、改めてそのときの判定基準を標記すると良い。・第9期のデータをさらに拡大して、現状を把握する必要はないのか要検討。・PAAQとの連携があると互いに充実が得られる。・PAEの介入により、どれだけ喘息のコントロールが良くなったのかなどのデータが必要で、PDCAサイクルを廻すことで、今後の更なる展開をはかってほしい。難しいとは思いますが、PAEの介入が医療上でオーソライズされる方向を追及してほしい。・ケーススタディを進めることは重要であるが、同時に、それが個別のケースのみに当てはまることなのか、広く他にも適用できることなのかの検討が必要。・PAE、マスターの活躍の具体的なより目に見えるような成果の調査結果などを期待したい。・PAEの育成に時間をかけすぎているのではないか。・教育研修プログラムの開発では具体的な成果が出ていると評価できる。プログラムの検証は困難な問題がつきまとうと思われるが、この点の成果も期待する。					